

教職員多忙化改善のための
実践事例及び取組提案の報告

○実践事例及び取組提案の回答件数等	P 1
○実践事例及び取組提案まとめ	
1 学校現場における改善	
（1）教職員の意識改革に関する意見	P 2
（2）業務の進め方及び削減に関する意見	P 3
（3）部活動に関する意見	P 6
2 教育委員会や関係団体による改善	P 7
○部活動休養日の設定についての教職員のアンケート結果	P 10

○実践事例及び取組提案の回答件数等

◎回答件数等

項目	回答学校数	回答件数
小学校	206	2,326
中学校	82	1,215
義務教育学校	2	43
高等学校	43	957
特別支援学校	9	181
総計	342	4,722

◎回答の内訳

項目		回答件数
1. 学校現場における改善		2,656
内訳	(1)教職員の意識改革に関する意見	348
	(2)業務の進め方及び削減に関する意見	2,206
	(3)部活動に関する意見	102
2. 教育委員会や関係団体による改善		2,066
総計		4,722

1 学校現場における改善

(1) 教職員の意識改革に関する意見

①時間管理に関すること

- ・ノー残業デーを設定する。(例えば毎週水曜日など)
- ・教師の退校を促すミュージックチャイムを入れる。
- ・一定時間以降に学校に残る場合は管理職に申し出る。その際、仕事の内容と帰る時間も申告する。
- ・計画的な年休取得を管理職が教職員にすすめる。
- ・中高でのテスト前後の期間が多忙であるため、テスト作成や丸付けの時間を保証する。

②意識改革に関すること

- ・時間外勤務の縮減や退校時間などの目標や業務改善に向けたスローガンを学校として設定する。
- ・学校評価に時間外勤務縮減に関する項目を設定する。
- ・日常業務でやるべきことを記録しておく「TODOリスト」の作成を習慣化し、教職員の業務の計画性を高める。
- ・スクラップ&ビルドの視点を持ち、新しい取組を入れる際には、現存する取組をやめるという考えを持つ。
- ・校内止まりの提案書類は、「完成度70%でよし」という共通理解を学校内でもつことにより、業務への負担感を減少させる。
- ・ワークライフバランスについて学習会を開催し、「心の豊かさ」について考える機会をもつ。
- ・校内に多忙化改善プロジェクトチームを組織し、校長・教頭・教務・ベテラン・若手等で自校の多忙化の原因や改善策を検討する。

1 学校現場における改善

(2) 業務の進め方及び削減に関する意見

①会議・校内研修に関すること

- ・担当者がすべての会議に出席するのではなく、必要最小限のメンバーで会議を開催する。
- ・「教科部会」「校務部会」などの会議を時間割上に位置づけ、放課後の実施をできるだけ避ける。
- ・校内研修（若手研、OJTなど）や他の会議を夏期、冬期休業期間を中心に組み入れるなど、年間を通して計画的な実施とする。
- ・職員会議資料の事前配付による職員の内容把握をすすめ、会議の効率化を図る。
- ・会議資料は、トヨタ方式を採用し、1つの議件につきA4紙ワンペーパーで済ませる。
- ・各種会議にあらかじめ時間制限を設け、延長はしない。
- ・校内研修（若手研、OJTなど）を短時間の実施とし、効率的に行う。
- ・予定黒板や配付物の活用による職員間の情報共有を進め、職員朝礼での打合せ回数を減らす。
- ・複数の会議を同一日に開催し会議の日数を減らす。
- ・内容のよく似た会議を統合する。
- ・同窓会・PTA関係の会議を減らす。

②学校が行う調査・学校からの連絡に関すること

- ・様々な書類・アンケートなどの精選・簡略化・回答方法の改善を図る。
- ・学校便りや学年便りなど、保護者への案内で重複している掲載項目を整理・統合し作成業務を軽減する。
- ・研究発表会などの各校への案内・周知をスマートスクールネットで行うなど、周知のための負担を軽減する。
- ・PTA便りの発行回数を減らす。

③校務分掌・学校行事・日課に関すること

- ・校務分掌で繁忙期に他の分掌から応援してもらうことにより（スタッフの一時的増員）、業務の効率化を図る。
- ・若手とベテランをペアで校務を担当させ、若手育成につなげるとともに若手の業務負担を減らす。
- ・その都度の印刷業務の負担を軽減するため、生活指導資料や進路調査資料など児童・生徒に配付するものをあらかじめ1冊の資料として製本し活用する。
- ・学校行事などの見直しを、行事終了後随時行うことにより、効率的に改善策を検討する。
- ・時間割の変更や日課の工夫により、放課後の会議時間等を捻出する。
- ・生徒玄関前での「あいさつ運動」の時間を短縮する。
- ・夏季休業中に実施している学校独自のサマースクールを厳選する。
- ・合唱コンクール、運動会、文化祭など学校行事の内容の精選を検討する。
- ・複数の行事を同一日に行い、類似行事を統一する。
- ・研究発表資料や研究紀要を簡略化する。

④環境整備・ICT化に関すること

- ・定型業務にかかる文書の様式や文例などを電子化して、新規に作成する負担を軽減する。
- ・活用しやすいように校内ネットワークの共有フォルダの体系化をすすめる。
- ・教材等（挿絵・図、ワークシート、学級便り等）のデータベース化を進め、共有化を図る。
- ・担当業務の引き継ぎ資料の作成・明瞭化により、分掌の業務負担を軽減する。
- ・家庭学習時間、授業評価アンケートなどの調査をマークシートによる集計とし、事務的な業務を軽減する。
- ・事務機器（コピー機、プリンター、パソコンなど）の最新鋭化や台数増により、業務の効率化を進める。
- ・機能的な職員室のレイアウトを検討し、業務遂行の効率化を図る。
- ・職員室に連絡用ディスプレイを設置することで、行事や連絡を黒板に書き込む業務を軽減する。
- ・賞状などの差し込み印刷は、担当者が一括して行うなど、作業の分業化による効率化を図る。

⑤会計業務に関すること

- ・学校徴収金の徴収を口座振替で行う。
- ・インターネットの活用により、教材業者などへの支払い業務を軽減する。
- ・集金業務において集計様式（表計算）を統一し、事務負担を軽減する。
- ・事務職員が学年会計の支払業務を担当する。

⑥外部委託に関すること

- ・校内のデータ整理やホームページ作成において、ICTサポーターからの助言を受ける。
- ・学級園、庭木などの手入れ、水やりの世話などを、地域ボランティアに依頼する。
- ・「PTA広報誌」「資源回収の案内」等を、地域（公民館など）の協力を得て配布する。

1 学校現場における改善

(3) 部活動に関する意見

①休養日に関すること

- ・日曜日は部活動をしない。
- ・土日の部活動をどちらか1日休みにする。
- ・学校で一斉にノ一部活動デー・ショート部活動デーを設ける。
- ・部活動休養日の日数を月単位、または年単位で定める。

②活動内容に関すること

- ・部活動の年間計画をしっかりと立て、大会やシーズンのON・OFFをはっきりさせる。
- ・同一校での合同部活動の実施により、指導にあたる顧問数を削減し、負担軽減を図る。
- ・冬期間（11月～3月まで）の部活動終了時刻を早める。
- ・部活動計画を申請制とし、別途定めた上限時間（総量時間など）をもとに計画的な実施とする。

③組織・体制に関すること

- ・部活動複数顧問制を実施し、交代で部活動を指導できる体制をつくる。
- ・部活動数の削減による複数顧問制の促進を図り、教職員個人の負担を軽減する。
- ・中学生の部活動の加入を任意制とし、教員も部活動顧問を任意制とする。
- ・部活動を高みを目指す「部活動」と活動を楽しむ「サークル（同好会）」に明確に線引きをし、部活動指導にメリハリを付ける。

2 教育委員会や関係団体による改善

①時間管理・意識改革に関すること

- ・県下全域または市町単位でノー残業デーを統一して実施してほしい。
- ・人事評価において、勤務時間内の効果的な業務遂行が評価されるということを徹底してほしい。
- ・ワークライフバランスモデル校を設定し、業務の効率化についての良好事例を共有してほしい。
- ・夏休みのお盆の期間など、年休を全員でとる日を県や市町単位で決めて設けてほしい。
- ・朝の交通安全指導や行事開催日の早出の準備等に対応した勤務時間を設定してほしい。
- ・タイムカードの導入により勤務時間の管理を行ってほしい。
- ・県または市町単位で勤務時間外の電話対応は、緊急時のみに限る旨の通知を保護者向けに出してほしい。
- ・校内電話を勤務時間終了時刻（または児童生徒の最終下校時刻）以降、つながらないようにしてほしい。

②調査物・行事の削減に関すること

- ・県教委と市町教委で重複している調査を一元化してほしい。
- ・事務負担を軽減するため、アンケート調査をマークシート式にほしい。
- ・県教委等が学校に行う調査報告などに関して、回答するまでに一定の期間を確保してほしい。
- ・照会や提出物に関して、メールや文書などの方法を統一し、事務的業務の煩雑さをなくしてほしい。
- ・多忙化の現状においては、学校での他団体からの児童生徒や保護者向けのチラシ配布が負担であり、配布物に一定の制限（教委後援のものに限るなど）を設定してほしい。
- ・多忙化の現状においては、関係機関や各種団体等からの要請（作品等の応募、調査、アンケート等）が負担であり、市町教委などでその必要性を判断し精選してほしい。
- ・学力調査に向けての準備の縮小と調査後における学校での事務処理を軽減してほしい。
- ・市町教委が主催している科学教室などのサマースクールを重点化し、回数や内容の見直しを図ってほしい。
- ・スポーツ大会などの校外行事の回数が多いため、必要なものみに厳選してほしい。

③研修体制・教育委員会による学校訪問に関すること

- ・ 県教委・市町教委による学校訪問の回数の削減や内容の簡素化を図ってほしい。
- ・ 研究校に指定された場合に作成・提出が求められる関係書類について、簡略化・焦点化してほしい。
- ・ 郡市単位や市町単位の学校教育研究会の事業を精選し、出張回数を削減してほしい。
- ・ 担当者会議や研修会に参加する時の事前レポートや持参課題の削減を図ってほしい。
- ・ 県教委及び市町教委主催の研修・講演会の内容と時期を精選し、重複を避けてほしい。
- ・ eラーニングやサテライト会場での研修の実施をさらに進め、集合研修を減らしてほしい。

④電子化や様式の統一に関すること

- ・ 指導要録の様式を統一し、事務負担を軽減してほしい。
- ・ スマートスクールネットに掲載されている授業実践例や指導案のさらなる充実を図ってほしい。
- ・ 事務的な業務の効率化を図るために、校務支援システムの導入を進めてほしい。
- ・ 高校の体験入学申し込みの様式や方法を統一し、業務の効率化を図ってほしい。

⑤外部委託・学校徴収金に関すること

- ・ 給食費を公会計にしてほしい。
- ・ 学校徴収金の未納者への対応を市町教委で行い、教員の負担を減らしてほしい。
- ・ 学年会計の管理を教員以外で行うことにしてほしい。
- ・ 毎学期ごとに教職員中心に行っている校舎内のワックスがけ作業を外部委託にしてほしい。

⑥教職員定数・スタッフの増員に関すること

- ・ 教職員の定数改善について、強く国に働きかけてほしい。
- ・ 小学校での専科教員等の配置により、教員一人あたりの授業の持ち時数を減らすことで、負担を軽減してほしい。
- ・ 小中学校に、給食指導、実験準備、プリント印刷、掲示物等を担うサポート職員を配置してほしい。
- ・ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを増員し、問題解決の円滑化を図り、教員の負担を軽減してほしい。
- ・ コンピュータやネット環境の整備に詳しい専門家（グループ）を各校に巡回させ、データ管理や電子化についての効率的な方法を指導してほしい。

⑦部活動における教育委員会に関すること

- ・土曜日または日曜日を県下一斉に休養日にしてほしい。
- ・部活動の公式戦をすべて月曜から土曜に実施してほしい。
- ・生徒引率ができる部活動指導員を導入してほしい。
- ・すべての部活動に専門的指導のできる外部指導者を配置してほしい。
- ・教員の部活動顧問を希望制に変えてほしい。
- ・部活動の顧問が異動した後、その部の指導ができる教員を配置するなど部活動指導に配慮した人事異動を行ってほしい。
- ・部活動の地域スポーツクラブへの移行を進めてほしい。

⑧部活動における中体連・高体連に関すること

- ・2日開催を1日開催や土日開催を平日開催にするなど、大会運営の工夫をしてほしい。
- ・週休日に中体連や高体連が主催する大会参加のために引率した場合、その分の振替休日をとることを制度化してほしい。
- ・顧問教員に大会の運営スタッフの仕事が要請されることがあるが、負担軽減を図ってほしい。
- ・各競技の会場を能登地区、金沢地区、加賀地区でまわし、移動にかかる負担の平準化を進めてほしい。
- ・個人競技であってもタイムテーブルを作成し、大会進行の計画性を高めてほしい。
- ・開会式等の工夫により、参加日数や滞在時間の縮減を図ってほしい。
- ・大会救護について、看護師を配置し、養護教諭の負担を減らしてほしい。
- ・県の専門委員会など会議を精選してほしい。
- ・理事会や委員長会議等の出席者を厳選し、学校を空ける日を縮減してほしい。
- ・理事を輪番制にして業務を軽くし、特定の者に負担がかからないようにしてほしい。
- ・各競技毎に開催される研修会を長期休業中に開催してほしい。
- ・顧問会議等をメール会議やスカイプなどを利用して、出張回数を減らしてほしい。
- ・大会申込をメール対応として、申し込み業務を減らしてほしい。

部活動休養日の設定についてのアンケート結果について

教職員多忙化改善のための実践事例及び取組提案募集時に併せて、中学校及び全日制高校の教職員に対し、部活動休養日の設定についての考えを調査したもの。
 回答状況 中学校:1,977人/2,105人(回答率93.9%)
 全日制高校:1,676人/1,731人(回答率96.8%)

現在、部活動については、校種を問わず、すべての学校において週1回以上の休養日を設定しているところですが、休養日についてあなたの考えを伺います。

1. 休養日を、原則、土曜日または日曜日に設定することについてどのように考えますか。
 あてはまるものを1つ選んでください。

	中学		全日制高校	
	人数	割合	人数	割合
①賛成である	1,431人	72.4%	1,088人	64.9%
②反対である	200人	10.1%	226人	13.5%
③どちらとも言えない	346人	17.5%	362人	21.6%

2. 1で「賛成である」と回答した方に伺います。休養日を土曜日・日曜日に設定することにより、どのような効果が期待できると考えますか。あてはまると思われるものをすべて選んでください。(複数回答可)

	中学		全日制高校	
	人数	割合	人数	割合
①生徒のスポーツ障害の予防につながる	560人	39.1%	339人	31.2%
②心身がリフレッシュし、生徒の学習意欲が高まる	742人	51.9%	596人	54.8%
③生徒の家族や地域と触れ合う時間が増える	946人	66.1%	614人	56.4%
④適切な休養日の設定により、競技力が向上する	454人	31.7%	347人	31.9%
⑤教職員の健康の維持につながる	1,061人	74.1%	724人	66.5%
⑥心身がリフレッシュし、教職員の業務への意欲が高まる	844人	59.0%	609人	56.0%
⑦教職員の個人の時間(家庭や趣味など)の確保につながる	1,119人	78.2%	807人	74.2%
⑧その他	46人	3.2%	44人	4.0%

「⑧その他」と回答した方の意見

- ・生徒の学習時間や体のケア(治療)などの時間が確保できる。
- ・肥大化した部活動に歯止めをかけることができる。
- ・教員を志す学生が増える。 など

3. 1で「反対である」と回答した方に伺います。その理由について、あてはまると思われるものをすべて選んでください。(複数回答可)

	中学		全日制高校	
	人数	割合	人数	割合
①土日にまとまるとれる練習時間と指導機会が減少する	165人	82.5%	197人	87.2%
②競技力の低下が懸念される	104人	52.0%	134人	59.3%
③生徒の意欲低下が懸念される	67人	33.5%	71人	31.4%
④教員の意欲低下が懸念される	32人	16.0%	40人	17.7%
⑤生徒指導上の問題が懸念される	80人	40.0%	53人	23.5%
⑥保護者から土日の活動に対する要望がある	57人	28.5%	40人	17.7%
⑦その他	63人	31.5%	71人	31.4%

「⑦その他」と回答した方の意見

- ・休養日の設定は指導者と生徒で決めれば良い。
- ・部活動の種目により内容に差異があり、一律に土日どちらかを休みにするのではなく、年間で部ごとの裁量で休養日を設定したほうが良い。
- ・必要に応じて設定すればよく、必ず土日に設定する必要はない。
- ・外部指導者が土日のみの指導であるため。 など

4. 1で「どちらとも言えない」と回答した方に伺います。その理由について、お答えください。

「どちらとも言えない」と回答した方の理由

- ・学校の方針や部活動に取り組む生徒の目標に応じて、休養日を設定することが望ましいと考える。
- ・私立高校も足並みを揃えられるなら良いと思う。
- ・休養日は必要と考えるが、生徒の活動時間を十分に確保することも必要と考えるため。 など